

淑徳大学広報 <http://www.shukutoku.ac.jp>

Together

2011.7.1

2011 Summer
Shukutoku University No. 187



■No.187のCover People

【石巻でのボランティア活動に専念する参加学生】

宮城県石巻市雄勝町大須小学校を拠点に、1ヶ月以上にわたるボランティア活動に従事しました。自分たちができることは何なのか——自問自答をくり返しながらいま、「できること」に懸命に取り組みました。

P01 > 特集 東日本大震災支援ボランティア活動報告

いま、できることを、ここから。

～淑徳大学の震災支援への取り組み、そして、これから～

P03 > SECTION 01

私たちが見たこと、感じたこと

P06 > SECTION 02

つながる、動き出す

P07 > SECTION 03

それぞれの立場でできることを

P09 > SECTION 04

いまこそ気持ちを一つに

P 1 一季一言「息の長い被災地支援を」

P11 世界の中で人と人との
つながりを感じた！
短期海外研修レポート

P13 NEWS CLIP



P10 > 活躍する淑徳人

「大学・同窓会の皆様の支援に感謝しています」

宮城県石巻市立大須中学校校長 岩佐 勝さん

息の長い被災地支援と

このほど、岩手県の平泉が、ユネスコの世界遺産に登録されることとなりました。東日本大震災の被災地の方々に希望と勇気をもたらし、復興の足掛かりとなることを、心から祈らざるを得ません。

去る5月のゴールデンウィークに、私は、学生ボランティアが活動し始めた石巻市雄勝町の大須小学校避難所をはじめ、大船渡、陸前高田の被災地を訪ね、また、御父上を津波で亡くされたこの3月期卒業生を弔問しました。さらに宮城・岩手両県の同窓会支部の卒業生10名余とも再会して、被災状況を聞くなど情報交換をし、大学として、息の長い被災地支援を約束したのでした。

5月3日、最初に訪ねたのは石巻市横川の浄土宗大忍寺でした。本堂前でお勤めをさせていただき、振り返るとご住職がおられるではありませんか。「これから、多数の児童・教職員が犠牲になられた大川小学校に向向いて、追悼のお勤めをしたいと思います」と伝えたところ、「私も一緒します」ということになり、ご住職の先導で、いまだ大津波の爪痕が痛々しい同小学校へ伺ったのでした。校門と思しきところには、犠牲者を悼む家族や有縁の人たちが献じたたくさんの花束や、児童が好んだ品々が供えられていました。私たちはその前に立ち、しばし一緒に慰霊の読経念仏を捧げた次第です。後日談になりますが、大忍寺のご住職は、その後毎日同校に向向かれ読経しておられるそうです。

大須小学校の避難所で、卒業生の岩佐勝氏(大須中学校校長)と久しぶりにお会いしたとき、遅くなってすまないといった気持ちと、母校は常に近くにいるぞ、といったメッセージを少しは伝えられたのではないかと安堵したものです。何よりも、1か月以上に及ぶ学生諸君のひたむきな支援活動が、これを裏付けるものとなりました。

5月5日帰業の日、朝になって平泉の中尊寺を参拝することに決めると、山内諸堂を巡拝し、ご本尊に被災物故者諸霊の追悼と震災復興を祈りました。東日本大震災と向き合う私の思いです。

学長 長谷川 匡俊



東日本大震災の概要
【発 生】平成 23 年 3 月 11 日 (金)
午後 2 時 46 分 18 秒
【震源地】宮城県牡鹿半島沖
【被災地】1 都 1 道 16 県
【規 模】マグニチュード 9.0

東日本大震災発生以来、被災地におけるボランティア活動、街頭での募金活動等に多くの学生、教職員が従事した。また、同窓会ネットワークも支援に立ち上がった。
Together with him.
現地で被災された人々の悲しみに接し、あるいは多くの善意に励まされ、この言葉が持つ重みをいっそう実感する活動となった。
私たちの使命は、共生の精神のもと、人に寄り添い、点と点、心と心をつなぐ支援を続けていくことである。
状況は刻々と変わり、現場に立たなければわからないことがある。
ボランティアに参加した学生の生の声、教員や同窓生による活動報告・提言を通して、私たちにさらに何ができるか、共に考えていきたい。

いま、
できることを、
ここから。
淑徳大学の震災支援への取組み、そして、これから



私たちが見たこと、 感じたこと

現地を訪れた学生たち。
困難な状況の中で、何とか役に立ちたいと懸命に頑張った
活動の様子、経験談を紹介する。

4月28日から6月5日まで、宮城石巻市雄勝町大須小学校避難所にて、学生・教職員が支援活動を行った。
参加者は学生58名、教職員14名。
学生4〜6名で班を編成し、5日間ずつ12班に分かれて現地に赴いた。主な活動は、避難所の夕食づくりのお手伝い、瓦礫撤去、昼食炊き出しのお手伝いなど。宮城県涌谷町に後方支援基地を設置し、ここからバスで毎日約1時間かけて現地に移動した。
浜の清掃作業は毎日行っても次から次へと瓦礫が打ち寄せてくる。また、断水のため自衛隊がタンクで運んでくれる水が頼り。約1か月間で状況は変わっていったが、困難な作業が続いた。そんな中で、7班以降はマッサージをする活動が加わり、避難所の方々と過ごす活動が打ち解けることができた。
学生たちは、宿舎に戻ると毎夜ミーティングを開き、その日の行動を振り返った。さらに次班との引継ぎを徹底して行った。現地の方々のために自分たちがやるべきことは何か議論を重ねた。学生にできることは確かに限られていたかもしれない。だが、力を合わせ、懸命に取り組むことで、現地の方々と、そして学生同士の心と心のつながりを実感することができた活動だった。

5月予定表		月予定表	
日	曜	日	曜
1	日	16	月
2	月	17	火
3	火	18	水
4	水	19	木
5	木	20	金
6	金	21	土
7	土	22	日
8	日	23	月
9	月	24	火
10	火	25	水
11	水	26	木
12	木	27	金
13	金	28	土
14	土	29	日
15	日	30	月
		31	火

避難所に置かれたホワイトボード。これには、避難所から学生ボランティアに向けて活動依頼が書かれている。主な依頼は昼食・夕食作りや浜の清掃作業。作業の前に毎日確認をして被災者の要望に応じていった。



聴覚障がいを持つ学生と、手話通訳ができる学生が参加しており、二人が中心となって児童に手話教室を開いた。手話での挨拶や、手話を交えて歌を歌ったり、聴覚障がい者についての授業を行った。お礼に児童たちから手紙をいただいた。またある中学生が学生ボランティアの姿を見て「人の役に立つ仕事をしたい」という夢を語ってくれた。学生の活動はしっかりと子どもたちのお手本となっており、学生にとって大きな自信になったようだ。



入院患者全員を含め、64人が犠牲になった雄勝病院。作業に向かう途中で立ち寄り、黙とうを捧げました。震災時、3階に避難したそうですが、津波は建物をまるごとのみ込みました。



CHIBA 第1回石巻市大須地区 ボランティア報告会

参加した学生はコミュニティ政策学部を中心に約200名。学生6名による発表、ボランティアに同行した鏡論先生、矢尾板俊平先生、石巻市をはじめ東北各地域を視察した石川紀文先生から報告があった。また、当日は報道各社も取材に訪れた。



SAITAMA MIZUHODAI ボランティア活動座談会



ボランティア活動座談会では石巻市大須地区にて活動した学生7名が出席。山口光治学部長の進行のもと、ボランティアに同行した藤森雄介先生、小倉常明先生、広報・地域連携委員会委員長岩村沢也先生を交え、現地での活動の様子が報告された。今後、授業やオープンキャンパス等での公開報告会が予定されている。



**この体験を財産に
警察官を
めざしたい**
被災地の状況を自分の目で見て、その悲惨さに胸が痛みました。大切な人を失ったり、帰るべき場所がなかったり、そのような状況にあっても現地の方々は私たちに優しい言葉をかけてくださいました。将来、私は警察官になりたいと思っています。今回のボランティア活動を通して、人のために働くとはどういうことなのかをあらためて学ぶことができました。この体験を財産に、自分の夢に向けて努力を続けていきたいと思っています。



**手話教室で
小学生の
笑顔に触れた**
初めて現場に立った時、テレビの映像だけでは伝わってこない被災地の静けさや潮の匂いを肌で感じ、震災が現実であることを実感しました。3月11日のままだが止まっているようで、言葉にならないくらいショックだったことを覚えています。そんな中で、避難所の小学生たちに手話を教える機会をいただきました。とても好評で、2日間続けて実施することになりました。小学生たちに少しでも喜んでもらったのが嬉しかったです。



**学んだことは
人の強さ、
温かさ**
テレビを見ているだけで何もできない自分にもどかしさを感じ、ボランティアに参加しました。印象に残っているのは、お母さんたちと炊き出しの準備をしたり、子どもたちとゲームで遊んだりした時のこと。避難所の方々が笑顔を見せてくださると、「頑張ろう」と活動の励みになりました。現地で学んだことは、人の強さ、そして温かさ。これからも自分ができることを率先してやってみようと思います。皆さんもぜひ協力してください。



**気持ちが
つながる
素晴らしい**
テレビや新聞で現状をわかったつもりで参加しましたが、実際に目にする言葉にならず、ただ胸が痛むばかりでした。そんな中にもあって、避難所に夕食を持っていくと多くの人が笑顔で「ありがとう」と声をかけてくださいました。「遠くから来てくれてありがとう」「ありがとう」が、すごく大切な言葉だとあらためて感じました。短い期間だったのが残念ですが、1秒1秒が本当に貴重な体験でした。



**二度と「瓦礫」とは
呼ばない**
第1班として、緊張と責任の重さを感じながらの活動でした。崩壊した堤防、中央から折れた鉄橋、児童の7割が亡くなった大川小学校。その付近では、行方不明者の捜索が行われていました。活動を続けるうちに、私は瓦礫を「瓦礫」と呼ぶことができなくなりました。足元に転がる木材一片さえも、誰かの財産だということに気づいたからです。これからも自分ができることを続け、被災地の方々と「共に」生きていこうと思います。



**想像することで
その気持ちに
近づきたい**
宿舎から大須小学校へ車で移動する途中、のどかな田園風景が一変、被害の爪痕が広がっています。あたりまえの生活が奪われ、避難所での生活を強いられている方々の不安、悲しみ。それは、経験した人でなければ本当はわからないでしょう。でも想像することで、少しでもその気持ちに近づこうと努力しました。活動中、お菓子をくれた幼い子どもへの優しさ。この目で見えたこと、心で感じたことは、これからも絶対に忘れません。



震災がおきてから現在に至るまで

- 3.11 ー 宮城県沖 M9.0 の大地震発生
千葉キャンパス 中庭に教職員・学生約400名が避難。帰宅難民は大学に宿泊した。
埼玉みずほ台キャンパス グラウンドに教職員・学生総勢115名が避難。帰宅難民は大学に宿泊した。
- 12 ー 長野新潟県境 M6.7
- 15 ー 千葉キャンパス(総合福祉学部)、千葉第2キャンパス(看護学部 第一期生)卒業式中止
- 17 ー 埼玉みずほ台キャンパス(国際コミュニケーション学部)卒業式中止
看護学部街頭募金活動(～19日まで)
千葉キャンパス街頭募金活動(継続中)
- 18 ー 埼玉みずほ台キャンパス街頭募金活動(～3月31日まで)
- 23 ー 千葉県旭市で、ランチサービス
- 28 ー YFC)旭市にてボランティア(がれき撤去)
- 4.1 ー 入学式中止
岩佐勝さん)大須中学校に校長として赴任
避難所の役員に※後ほど淑徳人にて紹介
岩佐校長)同窓会にEメール 窮乏を訴える
東北地方同窓会が、岩佐校長へ物資支援を行う
- 5 ー 岩手県大船渡市と陸前高田市へ物資搬送
- 6 ー 埼玉県加須市に物資支援を行う
- 8 ー 千葉キャンパス、新入生ガイダンス
- 12.13 ー 埼玉県加須市に物資支援を行う
- 14 ー ボランティアセンター 石巻市雄勝町 視察
- 15 ー 岩手県大船渡市に物資支援を行う
- 18 ー 大学内に、東日本大震災支援ボランティアセンター設置
- 28 ー 準備班 現地入り
- 5.1 ー ボランティア第1班 現地入り
- 2 ー 準備班 帰校
- 4 ー 長谷川学長)大川小学校を訪問、お勤めを行う
ボランティア第2班 現地入り
- 5 ー ボランティア第1班 帰還
- 7 ー ボランティア第3班 現地入り
- 8 ー ボランティア第2班 帰還
- 10 ー ボランティア第4班 現地入り
- 11 ー ボランティア第3班 帰還
- 13 ー ボランティア第5班 現地入り
- 14 ー ボランティア第4班 帰還
- 16 ー ボランティア第6班 現地入り
- 17 ー ボランティア第5班 帰還
- 19 ー ボランティア第7班 現地入り
- 20 ー ボランティア第6班 帰還
- 22 ー ボランティア第8班 現地入り
- 23 ー ボランティア第7班 帰還
- 25 ー ボランティア第9班 現地入り
- 26 ー ボランティア第8班 帰還
- 28 ー ボランティア第10班 現地入り
- 29 ー ボランティア第9班 帰還
- 6.1 ー ボランティア第10班 帰還
- 2 ー 片付け班(学生消防隊)現地入り
- 3 ー 千葉キャンパスにて報告会
- 5 ー 片付け班(学生消防隊)帰還
- 7 ー 埼玉みずほ台キャンパス ボランティア活動座談会



Together with him SECTION 02

つながる、動き出す

宮城県の他にも、各地でつながる一人ひとりの思いがあった。



募金活動にご協力頂いた皆様へ感謝いたしますとともに、今後のご協力をお願い致します	
千葉キャンパス (総合福祉学部・コミュニティ政策学部)	
【期間】3/18～9/30(継続中) 【場所】JR蘇我駅ほか	(4月9日現在)
募金総額 1,010,998円+300ドル	

千葉第2キャンパス (看護学部)	
【期間】3/18～19 【場所】JR蘇我駅・鎌取駅	
募金総額 175,997円	

埼玉みずほ台キャンパス (国際コミュニケーション学部)	
【期間】3/18～31 【場所】東武東上線みずほ台駅	
募金総額 1,878,928円	

3キャンパス合計	(4月9日現在)
募金総額 3,068,923円+300ドル	

大学内でも教職員により以下の義援金が集まりました	
学内募金 1,149,898円	

①募金活動千葉・埼玉みずほ台地域支援ボランティアセンターでは、各キャンパスのボランティア学生を中心に、募金活動を実施している。この義援金は日本赤十字社を通して被災地に届けられる。

②千葉県旭市 3/23にランチサービスを実施。震災後、淑徳大学の学生ボランティアが被災地に入ったのは、この日が初めて。温かい食事を提供し、避難所の方々に喜ばれた。後日、瓦礫撤去などの活動を行っている。

③岩手県大船渡市 4/15に支援物資として、教職員の募金をもとに購入したウィンドブレーカー1100着、枕100個(株式会社まくら様提供)、ペットフード(蘇我中学校PTA役員様提供)を、本学職員により届けられた。

④埼玉県加須市福島県双葉町の社会福祉協議会に同窓生3名が勤務している縁で、同町の避難先である埼玉県加須市の旧・騎西高校へ支援物資を提供。4/12に千葉キャンパスからお米、子どもたちのために野球のグローブを届け、また4/6に、埼玉みずほ台キャンパスからお米と、おかげが炊ける炊飯器を複数台、4/13には野球用品を届けた。

点と点が結ばれる瞬間

浜で見つけた写真を、引率の職員の方が避難所にいるお母さんに渡したことがありました。この場所にはもともと日々の暮らしがあったはず。家族の背景まで見えてきて、点と点が結ばれるってこういうことなのかと実感しました。僕たちの班は避難所を小学校として使える状態に戻す清掃がメインで、それまでの班と活動内容が異なりましたが、現地の方の役に立つことに徹しようと議論し、目標を共有することで有意義な活動ができました。

第8班・人間環境学科4年 依田一樹(都立板橋高校出身)



悲しい光景を目にして 命の重さを実感

毎朝立ち寄り、黙祷を捧げた雄勝病院は、入院患者が全員犠牲になりました。患者さんや職員の写真が残されていたり、処置に使われる手袋がぶら下がっていたり、悲しい光景を目にしました。患者さんは闘病生活を送るだけで辛い気持ちを抱えていたでしょう。そこに突然起きた地震、襲い掛かった津波の恐怖は、僕には想像することができません。命の重さ、それに関わる看護師という仕事の責任の大きさをあらためて感じました。

第10班・看護学科4年 山本龍太(千葉県立市原八幡高校出身)



離れていても思う 現地の想い

初めて現地入りし、雄勝病院の前で黙とうをした時、自分の非力さを実感するともに、それでも頑張ろうと思いを新たにしました。実際、現地ではやるべきことがたくさんあり、後ろ髪を引かれる思いで活動を終えました。東京に戻ってから、時計を見るたびに「今ごろお母さんたちは何をしているのかな」とその姿を思い浮かべてしまいます。河北新報のホームページを毎日のようにチェックして、状況を把握するように努めています。

第7班・文化コミュニケーション学科3年 神保千波(淑徳巣鴨高校出身)



足を踏み入れなければ わからなかったこと

最終日に大須漁港に案内していただきました。灯台に登って見た美しい海の風景が今でも印象に残っています。夕暮れ時の穏やかな海でも、この海が人々や家を飲みこんでしまった。今日この場を離れると思うと、とても心苦しく思いました。自分で足を踏み入れたがたくなればわからなかったことがたくさんありました。現地の復興が少しでも早く進むことを祈らずにはいられません。それを確かめるため、またぜひお手伝いに行きたいです。

第8班・人間環境学科3年 堀井美穂(淑徳短期大学出身)



それぞれの立場でできることを

今回の震災では、教員や授業でも専門的な立場から支援・研究活動を展開している。それらの活動を通して明らかになった課題、今後の本学の支援活動の方向性について述べてもらった。

ACTION 1 被災地の介護現場を視察して 結城康博 総合福祉学部 准教授

4月下旬、東日本大震災で被害を受けた宮城県内の介護現場に出かけた。震災から1か月以上が過ぎた被災地での問題を、自分の目で確かめたかったからだ。

県北部の福祉避難所では、介護施設のホールを活用し、10人以上の高齢者が1フロアにベッドを並べて生活していた。決して良好な住環境とは言えないが、例え不便を強いられても、住み慣れた地域から離れた介護施設に移ることに抵抗を感じる高齢者が多いという。また、これとは別に一般避難所から福祉避難所に移ってくる高齢者も増えているようだ。避難所での共同生活を余儀なくされたことで、これまで自力で生活していた高齢者の中に介護サービスを必要とする人が潜在することが明らかになった。一方、津波被害を免れた介護施設では、近隣の高齢者を受け入れ、定員超過状態が慢性化していた。高齢者よりも、介護するスタッフの精神的・体力的負担も限界である。1日も早い対応が望まれる。

ACTION 5 ソーシャルワーカー被災地を走る 稲垣美加子 総合福祉学部 教授

今回は、直接被災地の支援をすることはなく、被災地に安定して必要な物資を運ぶことのできるストックヤードを作ることに力を注いでいます。震災から間もなく、NPOの方たちの支援を得て、車を乗りついで茨城県北部に辿り着き、被災と短期間の復旧の可能性の境界を茨城県北部東海村に見定めました。そこから、ソーシャルワーカーの専門性を生かし、地域を走り回り、人と人、組織と組織をつないで、茨城県下に集まる物資の一部を東海村に設置したストックヤードに集めることができるようになりました。

それ以来、NPOや社会福祉協議会、地域住民の方の協力を得て、被災地個々の地域の事情や避難所の展開に合わせて、細やかな物資の供給が可能となっています。支援する側の冷静な判断と広域な連携の必要性は、17年前の阪神大震災の体験から得た経験則の一つです。行政を中心とした安定的な物資の供給ルートも大切ですが、ソーシャルワーカーの「繋がりを感じだす」柔軟で迅速な支援が日々の人々を支えるためには不可欠だと実感しつつ、息の長い活動を心がけています。

ACTION 2

“Together with him”の精神を原点に、コミュニティの再生に力を尽くしたい 矢尾板俊平 コミュニティ政策学部 専任講師

東日本大震災という未曾有の災害、その復興に対して、学祖・長谷川良信先生の理念を原点とし、「学祖であれば、いま何をされるのか」「私たちには何ができるか」を考え、行動していきたいと思っています。

私たちひとりひとりが、“Together with him”の理念を受け継ぎ、学祖が現場で人々と寄り添いながら生きられたように、私たちも被災地の現場で、「自分たちができること」を被災地の方々と一緒に寄り添いながら、共に感じ、共に考え、復興に向けて歩んでいきたいと考えています。

産業の復興は「コミュニティの再生」が不可欠です。もし、その街で仕事が無くなってしまえば、人々は街を離れざるを得ません。例えば、漁業の街であれば、漁業だけではなく、加工、流通、販売も復興する必要があります。復興に求められるのは、まさにコミュニティ政策の視点です。

そこでアイデアを提案するだけに留まらず、被災地の方と共に歩ませていることで、私たち教員もコミュニティ政策学の実践と「サービスマーケティング」を通じて、学祖の“Together with him”の理念を具現化したいと思っています。そして、将来、被災地の方々に「震災前よりも良い街になったね」と喜んでいただけることができれば最高の喜びです。

ACTION 3

社会学からの取り組み 千葉市で防災についてのフィールドワーク 松園祐子 総合福祉学部 教授

災害が発生したとき、事前に防災対策を行ってれば、被害を軽減することができます。

近年、個々人の備えとともに、自主防災組織やささえあいなど地域社会でのさまざまな取り組みによる「安全で住みよい災害に『よいまちづくり』」の必要性が叫ばれています。

人間社会学科3年生の「フィールドワーク」では、毎年、社会調査を通して地域社会の課題と取り組んできました。今年度は、「千葉市における防災意識と防災行動」をテーマに設定しました。千葉市民に対するアンケート調査を9月に実施する予定で、現在、調査票の設計、千葉市総合防災課など関係機関との情報収集などをすすめています。情報との接触、地域のネットワークや連帯感、日ごろのライフスタイルなどが、人々の防災意識・防災行動や地域の防災対策とどのように関連しているのか、今回の震災で地域や住民の意識は変化したのかなどを研究しています。

ACTION 4

心理学からの震災へのとりくみ 小川恵 総合福祉学部 教授

防災の原則は「自助7割・互助2割・公助1割」です。いざという時、最低3日は自助・互助のみで支援はなく、自分達で決めていかねばならないのです。災害心理学の用語では、自分には起こらないと根拠なく思い込むことを「正常性バイアス」といいます。「想定外の事故」という発言は典型的な正常性バイアスです。

私たちが行っている心理的支援では、「支援者支援」と「間接被災」を意識しています。小川ゼミのブログでは震災後、あちこちでの質問に答えたことを公開しています。また、大学院心理学コースの修士や4月以降釜石市で心のケア活動をおこなっている木村登紀子元教授と共に震災支援の会「希望のいぶき」を立ち上げ、支援者支援のマニュアルを作りHPで公開しています。これを元に「私たちの被災体験」と題したパンフレットを作成しました。

6月7日に、本学主催の板橋区の公開講座において防災教育活動を行いました。6月11日には、心理臨床センターの地域支援事業において「わたしたちの被災体験」という形で、地域住民と学校教員を対象とした公開講座と座談会を行いました。これからも心理的支援を継続し、防災の啓発と発災後の二次的被災の拡大を防ぐ減災につなげていきたいと思っています。

ACTION 6



講義で地元の自治体での支援活動を検討 岩村沢也 国際コミュニケーション学部 教授

「地域社会学」では、実際に自分たちの住んでいる基礎自治体(市町村)が、この度の震災に当たりどのような支援をしたのか、また、今後誰が主体となってどんな支援をすべきかを問いました。学生達は、積極的にヒト・モノ・カネ・健康・心の支援を行っている「地元の自治体の姿」を知り、誇りに思っているようです。

「誇りに思う」ということは、学生が地元と何かしら心でつながっているということですね。今回の震災で、今まで空気のようにならなくなった地元地域の重要性に、学生達は気づきました。そして、できたら自分も応援に行きたいと言います。学生の皆さん、被災地に応援に行きましょ。現地の空気を、がんばる人々



ACTION 7



今後の淑徳大学の支援の方向性 足立 淑徳大学 副学長 淑徳大学東日本大震災ボランティアセンター 長

これまでの支援活動においてご協力・ご指導いただいた皆様に感謝申し上げます。

本学は今後も「東日本大震災ボランティアセンター」を軸に、学生の学びや学修成果が活かせる、あるいは教職員の専門性を提供できるボランティア派遣を息長く実施していきます。具体的には、「生活復興・地域復興に向けた中・長期的支援ボランティアの派遣」として、宮城県石巻市雄勝町において、①大須小学校・中学校での夏休み期間中の補習授業への学生・ボランティアの派遣、②地域復興に向けた町づくりのためのランドデザイン設計の計画立案への参画プロジェクトとしての支援、③二つを現在検討しています。私たちは今後展開される活動において

も、「Together with him」の言葉通り、「現地の人々と共に汗を流し、支援と共に取り組む」という基本姿勢を忘れてはなりません。さらに、本学の支援の方向性とその視点として、本学創立時に示された「本学としては特に社会事業の実践家として適切なイメージを見つけてゆきたい。いかなれば栄養学を身につけた良い調理師のようなケースワーカー、又は、諸職の棟梁として一軒の家を建て上げるとか、一つの町造りの中心となり得るコミュニティオーガナイザーの手腕力量ある人物を期待したい」という言葉の意味にその根を置くものであることを改めて確認しておきたいと思えます。

いまこそ 気持ちを一つに

現地では多くの同窓生が支援活動に携わっている。また学生たちもさまざまな形でボランティアに参加した。ここに報告するのはその一例である。気持ちを一つに、共生の輪がさらに広がっている。

スクールカウンセラーとして支援活動
永田 伊津香さん

被災地からの要請に応じ、千葉県臨床心理士会が支援活動のできるスクールカウンセラーを募集していました。自分にかかっていることがあればと思い参加したのです。現地では、先生方のお話を聴いたり、要請があった場合に子どもたちと面談したり、「共に居る」という気持ちを大切に、学校のニーズに合った活動を心がけました。

私が支援に入った学校は避難所ではなく、子どもたちからも多くの笑顔が見られ、何事もなかったように感じることもありました。しかし、個々で症状が出ている子どももおり、今後も専門的な知識をもった支援者がかかわっていくことが必要だと思いました。

被災地に入って感じたことは、自然の脅威と人の強さです。それまであった生活が突如一変しても、皆が支え合い懸命に生きていくと聞いています。子どもたちも先生方もとても頑張っていること、辛い大変な中でも子どもたちが笑顔を見せていないことをぜひお伝えしたいと思っています。ですから、支援者として何かをするということではなく、支えていく、見守っていくという姿勢が大切なことをあらためて感じました。

皆さんも学生のうちにしかできない人との交流やつながり、支ええられるという経験を持ち、それを今後に生かして欲しいと思います。「何かをしたい」という気持ちがあるのであれば、迷っている方は思い切って動いてみたら。現地に入っていくことを伝えていくだけでも意味のあることではないでしょうか。

平成20年 淑徳大学大学院臨床心理学領域 修士
現在千葉県・千葉市・葛飾区でスクールカウンセラー
千葉県こども病院 精神科 心理判定員



私が支援した町は津波の後に火災が発生しました。写真の木はその中で残ったものです。逆光ではなく、火災のせいで真っ黒になっています。早春の時期の大惨事。よく見ると木の芽が芽吹いています。

学生消防隊のボランティア活動



阿部 睦 (社会福祉学科3年生/千葉明德高校出身)
地域消防団の方々と協力して、浜辺の清掃活動を行ったことが印象に残っています。同じ消防団員という立場で貢献できたことがとても嬉しかったです。力を合わせて、木材の運搬や清掃などをスピーディーに行うことができました。これからも自分たちだからこそできることを考え、ボランティア活動を続けていきたいと思っています。



濱本千尋 (社会福祉学科2年生/千葉経済大附属高校出身)
現地の被害を目の当たりにして、津波の威力に圧倒されました。浜辺の清掃を行っていても、次から次へと木材や発泡スチロールなどが打ち寄せてきました。とても二日間では足りず、ボランティア活動を継続していかなければならないと思いました。「淑徳ビーチ」が早く元通りの美しい浜に戻ることを祈っています。

筒井 義一 (コミュニティ政策学科1年生/千葉県立行徳高校出身)
私たちは避難所である大須小学校に寝泊まりして、自衛隊の仮設掛湯風呂に入ったり、避難者の方々と生活をともにしました。救援物資は適切に送られているか。いま何が求められているのか。現場の目線で見ることができたと思います。今回の活動で僕たちが見たこと、感じたことを次の機会に活かしていきたいです。



お知らせ
この夏休み、大須中学の生徒21人を千葉キャンパスに招き、学生とのスポーツ交流会を開催するほか、夏休みを利用した被災地支援ボランティアプログラムを計画しています。詳細は各キャンパス地域支援ボランティアセンターまで、いま、できることを、ここから考えてみよう。

淑徳人

OB OG Interview #187

4月、大須中学校(石巻市雄勝町)に校長として着任した岩佐勝さん。取材中、多くの支援に対して、大学や同窓会関係者への感謝の言葉を繰り返す口にした。しかし、ネットワークが動いたのも岩佐さんの献身的な行動があればこそ。岩佐さんにとって淑徳大学とは、また、今回の震災で何を想ったのか。現地に足を運び話を聞いた。

淑徳OBとの出会で教育の道へ

高校時代、地元・宮城県でジュニアリーダーとして子供会の運営に携わっていた岩佐さん。上京し、税務署に勤務しながら、ボランティアで子供会活動を続ける。ここで出会ったのが、当時船橋市役所に勤務していた「力敏昭氏(淑徳OB/現・北海道浦河町の知的障害者厚生施設「浦河向陽園」施設長。影響をうけるうちに、子どもにかかわる仕事をしたという思いが募り退職。社会教育を学ぶため淑徳大学に入学する。

「力敏さんの社会教育に対する考え方に共感しました。異なる年齢の集団の中でさまざまな人と触れあってこそ子どもは育つ。原点は共生の精神。こんな素晴らしい先輩が出た大学でなければ、仕事を辞めてまで入ろうとは思いませんでした。」

情熱と誠意で築いてきた「共生き」のネットワーク
大学・同窓会の皆様の支援に感謝しています



入学後、「子ども会研究会」を創部し、船橋市における子ども会活動を支援。それらの活動を通して、教員を志す気持ちを固める。養護学校教諭、社会科教諭の免許を取得し、教育の道へと進んだ。

「特別支援学校に勤務した4年間はもちろん、普通校でも学習障害等を持つ生徒がいます。また保護者対応でもきめ細かい配慮が必要です。教育と福祉、淑徳大学で学んだすべてのことが今のベースになっていることは間違いありません。」

一人の淑徳人との出会いをきっかけに教員としてのキャリア、人脈、ネットワークを培ってきた岩佐さん。そのアドバイスは教員を志す学生にとって大いに参考になるに違いない。

「大切なのは、情熱を持つことと、できることを一つひとつ誠実にやっていくこと。教員になりたいという夢を決して諦めない。」

その時、淑徳しかなかった

辞令を受け、岩佐さんが最初に大須中学校に赴いたのは3月28日。雄勝町のあまりの状況に涙も出ず、呆然としながら車を運転していたという。着任するや否や、大須小学校に設けられた避難所の運営委員となる。

「自分ができる支援は何かと考えた時、まず淑徳のことが頭に浮かびました。東北の大学とも知人のネットワークはありましたが、淑徳でなければだめだと思ったのです。一つは自分が出た大学であること、もう一つは共生と美学を掲げる淑徳だからこそできることがあると思っただけから。地域支援ボランティアセンターがあることも知っていました。すぐに動いてくれる大学だと思いました。懇意の先生に連

絡すると、学長先生が自ら先頭に立って体制を整えてくださったとのこと。皆さんの支援に心から感謝しています。」

同窓生からはトラックいっぱい野菜や義援金等が届けられる。学生たちが炊き出しや瓦礫撤去にやってくる。「今度の校長はネットワークがすごいぞ」と驚きの目で見られたとか。

「これから求められるのは、復興の着地点を描きつつ、時々の状況に応じたタイムリーな支援を行っていくこと。その中で、夏に淑徳の学生を招き、自然の中で子どもたちと勉強会を行うことも考えています。地域あつての学校。地域の元気の源。そこに大学がどうかかわっていくかはとても重要な問題でしょう。淑徳の皆さんに支援をいただくながら、地域社会のためにできることを着実にやっていきたいと思っています。」

「私たちができること、すべきことは多々あると感じた取材だった。」



学生時代のスナップ：教育思想史ゼミの夏合宿。写真前列右から担当教員の白石克己先生(現 佛教大学教授)、岩佐氏、吉林隆善さん(静岡県立浜松特別支援学校副校長)、千田光久さん(岩手県立盛岡視覚支援学校校長)。同じゼミ仲間の同期3人が教員を勤めている。

1955年 宮城県亶理郡山元町生まれ。1978年3月社会福祉学部卒業。教員になって30余年。震災時は前任地・丸館中学校(宮城県丸森町)にて、生徒の安否確認等の指揮を執る。息つく間もなく大須中学校に着任。校務のほか、避難所の運営委員として地域支援に携わる。大須中はバレーボールの有力校。現地の人々の励みになればと応援に熱が入る。

宮城県石巻市立大須中学校校長

岩佐 勝 さん



人間環境学科
ブリスベン・ゴールドコーストコース
 3月1日～3月7日



研修内容
 小学校を訪問して授業参観をさせていただき、現地の教育事情視察を実施しました。また子供たちに日本文化の紹介や日本の遊びを伝える時間を設けました。今後の日本の教育で活かせるグローバルな研修でした。

人間環境学科 3年 矢田部 建佑 (埼玉県立川口総合高校出身)
 今回の研修での成果は、現地のこどもたちのコミュニケーション力の高さを肌で感じたことでした。英語があまり話せない私でも、表現の仕方一つでお互いの意思を伝える事ができることを学びました。また、自分の意見を堂々とはっきり表現する強さが見られ、日本人も自己主張を出せるようにしないとイケないと思われました。



経営コミュニケーション学科
台湾 コース
 2月28日～3月5日



研修内容
 現地の著名企業(長栄航空・長栄航太)を見学したり、台北101(高層ビル)や故宮博物院などの視察を通して、台湾の経済情勢と歴史を研修しました。また明新科技大学の学生・教員と交流しました。

経営コミュニケーション学科 研修参加学生一同
 言葉が通じなくても会話を楽しめて、台湾人のコミュニケーション能力の高さが伺えました。企業見学では、大型エンジンにとっても驚いて圧倒されました。多額の投資が必要なのに、それを惜しみなく投資するスケールの大きさに日本とは違うなと思いました。



人間環境学科
台湾福祉 コース
 2月27日～3月4日



研修内容
 障がい者施設見学をしたり、淡江大学の学生と交流を回りました。グループごとに駅や台北市内のバリアフリー検証を実施し、台湾の福祉事情を調査しました。

人間環境学科 3年 栗原 彩香 (埼玉県立川越南高校出身)
 海外の福祉に触れて、改めて日本の福祉の在り方について深く考えたり、日本でも見習うべき課題を多く見つけることが出来ました。今後の課題として挙げられるのは、日本のバリアフリーを広めていくことだと思います。



人間環境学科
バリ島 コース
 2月8日～2月16日



研修内容
 現地高校生や専門家から、バリ島の伝統武術・舞踊・ガムラン音楽・ヨガ・マッサージなどを習い、私たちはソフトボールや折り紙の指導をしました。また水不足に悩む地域のために行った植林活動などの体験を通じて、発展するアジア社会の若者たちと心豊かな交流活動を行いました。

人間環境学科 3年 塚越 さやか (埼玉県立坂戸西高校)
 初めての海外だったので、最初はとても不安でいっぱいだった。だが現地の人たちと過ごした日々はとても楽しく、この9日間ですごい経験ができた。この研修に参加して本当に良かったと心の底から感じる。きっとこれからの人生においても大きな財産になると思う。



文化コミュニケーション学科
シドニー コース
 3月6日～3月14日



研修内容
 現地高等学校の日本語クラスで「桃太郎」の紙芝居を日本語と英語で上演して、現地生徒との交流はとても充実しました。また歴史・教育・福祉など、一人ひとりがテーマを決めて、シドニー研修を行いました。

文化コミュニケーション学科 研修参加学生一同
 6日間の研修中ホームステイで過ごし、有意義な体験をしました。アボリジニー記念館の訪問や現地校の日本語クラスとの交流とリタイアメントビルリッジを慰問して、そのことをファミリーに報告するたびに心と心が触れ合うのを感じました。



経営コミュニケーション学科
シアトル コース
 2月27日～3月5日



研修内容
 ボーイング社、マイクロソフト社など、世界に名だたる企業を視察しました。世界の経済市場に多大な影響を与える会社があることを改めて感じました。またシアトルに商社支店を置く駐在社員の皆さまより商社の取り組み内容を伺いました。

経営コミュニケーション学科 3年 熊川 彩香
 毎日が驚きの連続でした。アメリカのスケールの大きさや異文化体験、とても新鮮な毎日でした。初めてのアメリカで不安がありましたが、慣れるに従い、だんだんと解消されました。何よりも素晴らしいことは、友人たちと1週間一緒に過ごせたことでした。大学生活で最高の思い出の一つとなったのではないのでしょうか。



経営コミュニケーション学科
サンフランシスコ コース
 2月14日～2月20日



研修内容
 アメリカの産業を支える大手IT企業を訪問し、レクチャーを受けました。各企業では、英語でレクチャーが行われ、議論を交わしました。さらに、スタンフォード大学を訪れ、経営学部の教授からもレクチャーを受けました。またショッピングセンターにも訪問しアメリカの店舗経営の仕組みなどについて学びました。

経営コミュニケーション学科 研修参加学生一同
 サンフランシスコ(SF)短期研修第1班では、西海岸ですが天気はやや肌寒く、雨の日が多かったのですが、シリコンバレーのhp、SF市のジェット口、adobe社などのIT関連企業への訪問が中心であり、充実した研修内容でした。



世界の中で人と人とのつながりを感じた!!

2010年度
 埼玉みずほ台キャンパス

短期海外研修レポート

2010年3月に国際コミュニケーション学部2年生が短期海外研修に行ってきました。現地の子どもたちや障がい者の方々と触れる、異なる文化を知る、あるいはビジネスの息吹を感じる。学生たちの視野が大きく広がった研修でした。

これからの時代、地域に根ざしたローカルな視点と国際社会の一員としての役割を果たすグローバルな視点の両方が必要です。そこに共通するのは、お互いを認め合い、共に生きていくという姿勢。体験的な学習を通して、学生たちは「共生」の意味をあらためて学んだことでしょう。

東日本大震災が発生し、気がかりな中での実施となったコースもありました。日本人としてのアイデンティティとは何か。諸外国が日本をどう見ているのか。離れていたからこそ感じられたことがあったはず。今後、研修の成果はオープンキャンパスや報告パンフレットで発表される予定です。この研修をステップに、地域や海外に目を向け、研究テーマをさらに発展させたり、新たな活動に取り組んでくれることを期待します。

2012年4月、埼玉みずほ台キャンパスに経営学部を新設予定(届出申請中)!

地域産業や観光分野で活躍できる、ビジネスリーダーを養成。埼玉みずほ台キャンパス開設以来、教育研究実績を積み重ねてきた国際コミュニケーション学部経営コミュニケーション学科を継承、発展させた経営学部を、2012年4月に新設予定(届出申請中)です。

新学部が掲げる人材育成目標は、地域産業や観光分野で活躍できる職業人を養成。本学、建学の精神である「共生」の理念を理解し、コミュニケーション能力や、リーダーシップを発揮できる人材を養成します。

4つのチカラを身につける。

新学部では、「教室で学ぶ」→「現場に出かける」→「現場で体験する」→「成果を発表する」というプロセスを実行し、感性力・洞察力・論理力・実行力を身につけ、幅広いビジネス社会で活躍できる能力を育みます。



経営コミュニケーション学科
韓国 コース
 2月21日～2月26日



研修内容
 ソウルの日本政府観光局と韓国観光公社で講義を受け、日本と韓国の観光事情について研修しました。板門店見学、石窟庵と仏国寺の見学、現代自動車の蔚山工場の見学など様々な場所を見学し、歴史・文化・経済の異文化理解を深めました。

経営コミュニケーション学科 3年 星野 由圭 (山村国際高校出身)
 私が最も印象に残っているのは現地の大学生との交流です。私は挨拶程度しか韓国語を話せないで不安に思っていたのですが、彼女達は思っていたより日本語が上手で会話に困る事はありませんでした。この研修を通して、普通に旅行しただけではできない様々な貴重な体験をすることができました。



SAITAMAMIZUHODAI Campus 03

淑徳大学埼玉みずほ台
保護者懇談会(協賛会、後援会総会)開催



5月28日、保護者懇談会が開催され、140名余の保護者が参加されました。スケジュールは、①学生食堂での昼食会 ②キャンパス見学 ③協賛会・後援会総会 ④学生の近況DVD上映 ⑤本年度の本学の教育説明 ⑥就職対策説明 ⑦グリークラブ(聖歌隊)による合唱披露 ⑧懇親会、個別相談会と盛りだくさんでした。特に今年度は埼玉労働局長をお招きして、本学の保護者のために特別講演をしていただきました。保護者の皆様は熱心に聞き、かつ楽しんでいただき、盛況の会となりました。

SAITAMAMIZUHODAI Campus 04

たばこのない世界を! 世界禁煙デー



5月31日は、世界保健機関が「たばこのない世界」を実現するために定めた「世界禁煙デー」です。厚生労働省はこの日から1週間を「禁煙週間」に定め、喫煙及び受動喫煙による健康被害についての普及啓発を行っています。そこでみずほ台では、この期間を「たばこについて考える週間」とし、今年も喫煙に関する各種ポスター掲示を行いました。5月31日の協賛イベントでは、82名の学生が「ヤニ検査」を受け、その後に「ニコチン依存度チェック」や、「禁煙相談」を受けた学生もいました。

SAITAMAMIZUHODAI Campus 05

岡田先生 学会賞受賞!

6月11日、経営コミュニケーション学科の岡田匡令教授が、日本ビジネス・マネジメント学会賞総合賞(特別賞)を授与されました。日本ビジネス・マネジメント学会の理事長として学会の発展に貢献し、研究者として永年にわたる学術研究業績を認められての受賞です。岡田先生、おめでとうございます。

定の栄養学科による栄養相談・身体チェック、模擬店など様々なコーナーが設けられ、お子様から御高齢の方まで楽しんで頂ける、ふれあい交流の良い機会となりました。



SAITAMAMIZUHODAI Campus 01

みずほ台キャリア
スタッフブログ配信中!



就職活動は情報戦とよく言われますが、皆さんはどのように情報を得ていますか? 例えば、成功の秘訣、大学内外のイベント情報、スタッフのつぶやき、学生からよく寄せられる質問・疑問など。淑徳大学の学生をよく知る総合キャリア支援室のスタッフが、皆さんに「本当に役立つ」情報を発信していきます。ぜひ「お気に入り」に登録して、随時チェックしてくださいね!!
<http://ameblo.jp/mizuhodai-career/>

SAITAMAMIZUHODAI Campus 02

留学生交流会開催



5月10日、シルクロードで留学生交流会が開催されました。留学生同士、そして日本人学生との和気藹々とした雰囲気の中で、楽しい交流がなされました。後半、進行役を務め、会を盛り上げてくれた経営コミュニケーション学科2年生の于楽(ウラク)君、本当にありがとうございました。留学生の皆さん、今回の交流会をきっかけに仲間づくりの輪を広げ、充実したキャンパスライフを過ごされるように願っています。



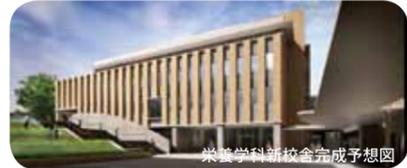
CHIBA 2nd Campus 01

看護師国家試験 結果報告

第100回看護師国家試験の結果が発表され、本学からは88名が合格(合格率99%)しました。残念ながら100%を達成することはできませんでしたが、全国平均を上回る合格率となりました。また、保健師国家試験の結果も同時に発表され、51名が合格しました。本学に看護学部が開設されてはじめて、看護師・保健師国家試験を受験した第1期生達ですが、先輩がいない中、一人ひとりの学生が持てる力を十分に発揮した成果が反映された素晴らしい結果だったと思います。これからの日本の医療を担う看護職の一員として、大きく羽ばたいてください。合格おめでとうございます。

CHIBA 2nd Campus 02

栄養学科が誕生します



2012年、看護学部「栄養学科」の設置を計画しています。短期大学の64年にわたる栄養士養成の伝統と実績を継承しつつさらに発展させ、21世紀に求められている“食生活による人間の健康の増進と健康社会の実現に挑む”人材の育成という社会的期待に応えます。福祉・医療・教育の分野において、人間の健康の保持増進、疾病の予防と改善に必要な専門知識、および実践的能力をそなえた管理栄養士を養成し、地域社会の健康の向上への貢献を果たしていきます。

CHIBA 2nd Campus 03

ナーシングフェスタ 2011 開催



昨年からの看護学部の学生、教員、松ヶ丘地区部会の方々为一体となって準備を進めてきた「ナーシングフェスタ2011～近隣のかたとのふれあいを求めて～」が、6月26日に開催されました。当日は時折雨の降る中、多くの地域の皆様に来場していただきました。校舎全体を使い、千葉市長講演、近隣施設や松ヶ丘地区のクラブ・サークルによる発表・展示、子供向け「なりきりナース・ドクター」、妊婦・胎児体験、衛生的な手洗い、手浴、新設予



身的な努力でスムーズに進行し、参加者全員元気満ちとした素晴らしい活躍を見せてくれました。野外ステージで表彰と賞品の抽選を行い、楽しいフィナーレとなりました。

CHIBA Campus 02

日本ブラジル交流サッカー教室開催



5月22日、フクダ電子スクエアで、千葉西ロータリークラブと共催で第4回日本ブラジル交流サッカー教室が行われました。池上正(NPO法人I.K.O市原アカデミー理事長)コーチのもと遊びの要素を取り入れた練習が行われ、ブラジル人親子129名を含む合計659名が参加して大盛況でした。

学祖・長谷川良信先生が渡伯し関係が深いブラジルへはブラジル派遣研究生が毎年夏休みに短期研修をしています。今年の夏休みに派遣されます学生8名や、ボランティア学生が運営を担いました。

CHIBA Campus 03

坂巻先生の喜寿記念講演会

千葉キャンパス15号館で6月4日、喜寿を迎えた坂巻照名誉教授の記念講演会が行われました。旧ゼミ生など約50人が参加、大阪や愛媛から駆けつけた同窓生もいました。坂巻先生は岩手県内で障がい者の作業所を手がけており、その体験談などを披露。一方、前立腺がんの告白で参加者を驚かせましたが、「お酒も普通に飲める。がんになるなら前立腺がいい」とユーモアは健在でした。

あけび書房発行 ▶ ¥1,680(税込み)



行につれて参加者の気持ちも身体もリラックスし、歓声も聞こえ、楽しんでいました。昼食時間は学生サークルの「ショータイム」で、歌や楽器演奏やダンスなどが披露され、有意義な一日を過ごしました。

CHIBA & CHIBA 2nd Campus 03

大巖寺にて法然上人800年遠忌法要開催



淑徳大学は浄土宗と深い縁でつながっています。本年は浄土宗祖である法然上人の800回忌にあたることから、母体である学校法人大乘淑徳学園や関連法人合同による「法然上人八百年大遠忌法要」が、6月18日、隣接の大巖寺にて執り行われました。浄土宗大本山増上寺(東京・芝)より八木季生大僧正を御導師に迎え、大巖寺幼稚園の園児らの可愛らしい献灯の儀式を始め、大学聖歌隊の仏歌で進行する厳かな法要となりました。参列者は300名を数えました。

CHIBA & CHIBA 2nd Campus 04

熊谷俊人千葉市長 本学の特別招聘教授に

この6月から熊谷俊人千葉市長が淑徳大学特別招聘教授に就任されました。この職は、本学の教育研究活動に貢献され、特別の能力をお持ちの方をお願いするものです。熊谷市長は、千葉市と淑徳大学との相互連携協定の締結の際の講演・対話をはじめ本学で開催されたフォーラムや看護学部での特別講演などの功績が大きく、今後も講演や特別講義等の教育支援活動が期待されています。また、本学と連携協力協定を結んでいる松戸市常盤平団地自治会会長の中沢卓実氏、三重県松阪市の山中光茂市長も同月から特別招聘教授に就任されました。

CHIBA Campus 01

スポーツレクリエーション祭

5月21日、アリーナと中庭などを使って、体育会の学生達による企画運営によるスポレク祭を開催しました。フープリレー・長縄飛び・玉入れ・綱引き・ムカデ競争・シッティングバレーボール、計6種目の総合点で競いました。夏のような日差しの中、体育会の献

NEWS CLIP

2011.4 ~ 2011.6

CHIBA & CHIBA 2nd Campus 01

淑徳おゆみ診療所(診療所事業)開院

社会福祉法人淑徳福祉会が運営する淑徳共生苑に隣接した「淑徳おゆみ診療所」を4月18日に開設しました。診療所の設置は淑徳共生苑入居者への医療サポートの充実と、地域の診療所として、一般外来診療や予防接種、健康診断などを行います。各検査機器も充実しており、予約なしで検査を受けられます。

CHIBA & SAITAMAMIZUHODAI Campus 02

新入生セミナー

●千葉キャンパス
東日本大震災に伴い入学式を中止したため、新入生が全員集う場は、このセミナーが初めてでした。震災の影響で合宿を中止し大学キャンパス内で実施となりました。4月22日の初日は宗教行事と長谷川学長の講演やシンポジウムで共生を学び、4月23日の2日目には、動的問題解決型ゲームにクラス単位で挑戦しました。ほとんどの新入生が、友達との繋がりが深まって大学生活になじめるようになったと感想を述べており、学びの集団形成に大きな成果を得ました。

埼玉みずほ台キャンパス

5月14日、体育館で、新入生同士の、またゼミ教員や学生リーダー(上級生)との交流と懇親を目的とした新入生交流会が実施されました。ゼミ単位やゼミを越えた多彩なゲームを行う中、進

ホームカミングデーのお知らせ

SaitamaMizuhodai Campus



7/24(日)
開催

国際コミュニケーション学部
ホームカミングデー（12期生の卒業を祝う会）

時間：14:30～18:00（受付14:00～）
場所：埼玉みずほ台キャンパス内
内容：ゼミの時間、講演会、懇親パーティなど

震災の影響により卒業式を挙げてできなかった12期生を中心とし「12期生の卒業を祝う会」として開催します。もちろん12期生以外のOB・OGの方も、先生方や学友との旧交を温めていただければと思います。

Chiba 2nd Campus



7/30(土)
開催

看護学部
ホームカミングデー（1期生の卒業を祝う会）

時間：13:30～17:00（受付13:00～）
場所：千葉第2キャンパス
内容：講演会 / 講師 隈本 邦彦 教授（江戸川大学 メディアコミュニケーション学部）
在学生との交流会及び懇親会など

卒業生の皆さんと大学や同窓会との連携を深めるとともに、卒業生へのアフターケアのための「卒業生の集い」を開催いたします。

10/29(土) 千葉キャンパス
開催予定 **総合福祉学部 ホームカミングデー**

詳細は、決定次第、本学ホームページにてご案内致します。

淑徳大学

スペシャルナイター



今年も千葉ロッテマリーンズを応援しよう!

千葉ロッテマリーンズ VS オリックス・バファローズ
8月5日(金)

18:15 試合開始 QVCマリンフィールド

QVCマリンフィールド



当日 Together187 号を見せると、
内野自由席入場料（通常 2300 円）が、
1 名様 500 円で観戦できます。・本学学生証提示でも OK

500
円

当日 QVC マリンフィールドにて設置される
淑徳大学ブースにて販売 16:15～19:30

日本社会福祉学会 第59回秋季大会

社会福祉学の進歩と普及を図り、学術の振興と人々の福祉に寄与・貢献する日本社会福祉学会大会が、今秋千葉キャンパスで開催されます。福祉に関する最新の研究や情報に接する機会です。興味のある方はふるってご参加ください。

「ソーシャルワークの本質を考える
—原理的な問いと実践力を作り出すもの—」

2011年10月8日(土)～10月9日(日) 淑徳大学千葉キャンパス

- ・記念講演 堀田力『ソーシャルワーカー—誰のために、何をつくるのか—』
- ・開催校企画シンポジウム『ソーシャルワーク教育における実践力養成とは』
- ・国際シンポジウム『日中韓における文化多様性と社会福祉の課題』
- ・東日本大震災特別企画シンポジウム 他

編集後記

石巻市大須地区でのボランティア活動に同行しました。「何ができるかわからないけど、誰かの役に立ちたい」という学生たちの行動は、稚拙さはありながらも尊いものでした。日本人が忘れそうになっていた利他の思想が、行いの中に静かに湧き上がっている、と感じるのは私だけでしょうか。「人は生まれによって尊いだけでなく、行いによって尊い」と釈迦は言いました。若者たちの地道な支援活動をサポートしていきたいとあらためて思います。(S.H)

「淑徳大学広報」に関するご意見、ご感想などのメールをお待ちしています! reply@soc.shukutoku.ac.jp

■千葉キャンパス

総合福祉学部 コミュニティ政策学部
大学院総合福祉研究科
〒260-8701
千葉市中央区大蔵寺町200 TEL:043-265-7331 (代)

■千葉第2キャンパス

看護学部
〒260-8703
千葉市中央区仁戸名町673 TEL:043-305-1881 (代)

■埼玉みずほ台キャンパス

国際コミュニケーション学部 大学院国際経営・文化研究科
〒354-8510
埼玉県入間郡三芳町藤久保1150-1 TEL:049-274-1511 (代)

池袋サテライト・キャンパス

〒170-0022
東京都豊島区南池袋1-26-9 MYT第2ビル7F TEL:03-5979-7061 (代)

通信教育部

〒174-0063
東京都板橋区前野町5-8-7 TEL:03-5392-5768 (代)